



鉄骨建物のモックアップに足を止める来場者

東京都葛飾区に工場を構えるMグレードファブ、日伸鉄工建設(金本貴範社長)は16、17の両日、東京国際フォーラムで葛飾区と東京商工会議所葛飾支部が主催する「第9回町工場見本市」に出展した。

展示会には葛飾区がブランドとして区内の製品、技術を認定する「葛飾町工場物語」の対象工場を中心に、東京都立産業技術研究センターや大田区、北区、荒川区、足立区、埼玉県八潮市などの近隣自治体、東京理

◆ 日伸鉄工建設(東) ◆
金本社長「1年かけて準備、反響に驚き」
町工場見本市に出展、鉄骨模型が注目集める

科大学産学連携機構等の学術・研究機関が出展した。金本社長は「認定を受け、準備が十分にできなかったこと、その後1年かけて用

意してきたという。出展にあたり、自社のPR動画や配布用の企業紹介カードと配布用付箋、鉄骨製作を説明するパネルなどを制作した。今回の出展ブースで何より目を引いたのは鉄骨建物の10分の1モックアップ。柱・梁・スプライスプレートごとに色を塗り分けたカラフルな鉄骨に、来場者の多くが足を止めて見学や質問をしていた。金本社長は「参加は地域貢献の意味合いや区民にわが社を少しでも知ってもらえれば、という軽い気持ちで決めたが、想像以上に立ち寄っていた。区内のいろいろな業種の人と知り合い、問い合わせもあるなど、反響に驚いている」と感想を述べ、「すぐに仕事につながる取り組みではないが、社会的地位の向上や企業のブランドの確立に通じるのではないかと思う。それが社員の意識改革にもつながることを期待している」と語った。

